

プログラム・デザイン・コース

■ 「琵琶湖国定公園の湿地を活用した環境教育～湖魚食文化に学ぶ～」

日 時：2025年1月18日（土）9：30～16：30
会 場：環境省琵琶湖水鳥・湿地センター
定 員：20名
講 師：中村 大輔氏（ラムサールセンター）
堀越 昌子氏（滋賀大学名誉教授）
關口 寿也氏（東京都多摩市立連光寺小学校校長・全国小中学校環境教育研究会会長）
松岡 正富氏（朝日漁業協同組合 副組合長）

集合時間：9:30（受付9:00～9:30）

集合場所：琵琶湖水鳥・湿地センター〔住所〕滋賀県長浜市湖北町今西1731

アクセス：①無料送迎バス（JR米原駅⇄琵琶湖水鳥湿地センター）乗車時間30分程度

朝：米原駅前8:50出発予定 夕：琵琶湖水鳥湿地センター16:35出発予定

②マイカー利用（※駐車場無料）

プログラム（予定）

	受付（9:00～9:30）
9:30	開講・ご挨拶（10分）
9:40	・お互いを知る時間（20分） ・バスで漁港に移動（2～3分）
10:00	※体験プログラム：琵琶湖での伝統漁法による漁業体験「鮎小糸漁」（刺網）の見学 ～船に乗船～（1時間20分）
11:20～12:10	講話：「琵琶湖伝統漁法について」松岡氏（50分）
12:10～13:10	昼食（鮎の稚魚、氷魚、なれずし等、季節限定の琵琶湖の八珍）
13:10	講義：「郷土料理をテーマにした環境教育プログラムについて～郷土の食文化の観点から～」堀越氏（50分）
14:00	講義：「郷土料理をテーマとした環境学習プログラムについて～環境教育の観点から～」中村氏（50分）
14:50	講義：「学校とつながるためのワンポイントアドバイス」關口氏（30分）
15:20	ワークショップ：「体験のふりかえり」等（1時間）
16:20	質疑応答 等（10分）
16:30	終了

※鮎小糸漁の見学は、安全性が考慮された、無理なく体験できるプログラムです。参加者のご様子を見ながら、スタッフが随時サポートいたします。乗船時にライフジャケット（※）をご着用いただきます（※現地でご用意しています）

※ 当日の天候等で、プログラムに変更が生じる場合があります。

※ 「学校とつながるためのワンポイントアドバイス」は、關口寿也氏からお話を伺います。

※ 研修終了後、簡単な事後アンケートにご協力ください。

プログラム・デザイン・コース

■当日ご用意いただくもの

- ・ 動きやすく脱着しやすい衣類・靴
野外での活動も含まれます。天候に合わせて調整できるように動きやすく脱着しやすい服装をお選びください。靴は汚れても良い履きなれた靴でお越しく下さい。
- ・ 防寒着
防寒対策をご徹底ください。帽子、手袋、ネックウォーマー、靴下の替えなど、各自必要に応じてご用意ください。（防寒具の貸出しは行いません。）
- ・ 飲料（マイボトル持参にご協力ください。）

■昼食について

季節限定の琵琶湖の八珍を含むお食事をお召し上がりいただきます。

八珍はいくつかのお皿に盛り、各自で小皿にお取りいただきながらお召し上がりいただけるようにご用意します。なれずしもございますが、おにぎり、弁当等の主食となるご昼食を適宜各自でご用意ください。

【鮎小糸漁と湖魚食文化について】

○鮎小糸漁

琵琶湖で行われている伝統漁法のひとつで、水中にカーテンのように張った網で漁獲する刺網漁の一種です。

○湖魚食文化

琵琶湖は400万年の歴史を有する世界でも有数の古い湖です。その悠久の歴史が琵琶湖に50種類を超える固有種を含む1,000種類以上の多様な動植物を育んできました。このような多様で豊かな恵みのもと、琵琶湖ではニゴロブナ、ビワマス、セタシジミなど琵琶湖固有種を主な漁獲対象として、琵琶湖漁業は発展し、これらの湖魚を利用した独自の食文化が育まれてきました。

【メイン講師プロフィール】

○中村 大輔（なかむら だいすけ）氏（ラムサールセンター）

水鳥と湿地の保護に関する国際条約「ラムサール条約」とその基本理念である「保全」と「賢明な利用（ワイズ・ユース）」の実現を目標に、特に湿地と人間との関わりについて、調査研究、普及啓発活動を行うNGO・ラムサールセンターのスタッフとして活動している。2006年から始まった、国内外のラムサール条約登録湿地で活動する子どもたちの全国交流会「KODOMO ラムサール」の交流会では、全37回のファシリテーターを務めた。

また、滋賀県草津市の公立小学校の教員として、琵琶湖の環境や郷土料理をテーマとした総合的な学習の時間のプログラムの開発を行い、実践している。

休日には、複数のこどもエコクラブを指導し、琵琶湖を主なフィールドとして子どもたちとの活動を続けている。